

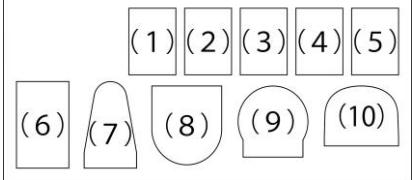
2020年3月30日
日本郵便株式会社

特殊切手「国宝シリーズ 第1集」の発行

日本郵便株式会社（東京都千代田区、代表取締役社長 衣川 和秀）は、日本のさまざまな文化を象徴するものである国宝を題材として、特殊切手「国宝シリーズ 第1集」を発行します。

第1集は、美術品や土偶といった縄文時代から古墳時代までの考古資料と、奈良時代から室町時代までの建造物を採り上げています。

1 発行する郵便切手の内容

名 称	国宝シリーズ 第1集														
発 行 日	2020年5月29日（金）														
種 類	63円郵便切手（シール式）					84円郵便切手（シール式）									
切 手 画 像	別紙のとおり														
シ 一 ト 構成・意匠	 (1) 土偶／長野県茅野市米沢棚畠遺跡 出土 (2) 土偶／北海道函館市著保内野遺跡 出土 (3) 土偶／青森県八戸市風張1遺跡出土 (4) 土偶／山形県舟形町西ノ前遺跡出土 (5) 土偶／長野県茅野市中ツ原遺跡出土 (6) 墳輪武装男子立像 (7) 裳姿襷文銅鐸〈伝讃岐国出土〉 (8) 肥後江田船山古墳出土品《獸帶鏡》 (9) 火焰型土器／新潟県十日町市 笹山遺跡 出土 (10) 奈良県藤ノ木古墳出土品《金銅鞍金具》														
壳 価	630円（シート単位で販売します。）					840円（シート単位で販売します。）									
印 面 尺 法	(1)～(5) 縦27.0mm×横18.5mm (6) 縦36.0mm×横21.0mm (7) 縦36.0mm×横21.0mm (8) 縦32.5mm×横29.0mm (9) 縦29.0mm×横29.0mm (10) 縦24.0mm×横31.0mm					(1) (4) (9) 縦24.5mm×横35.5mm (2) (5)～(8) 縦29.5mm×横35.5mm (3) (10) 縦42.0mm×横21.0mm									

小切寸法	(1) ~ (5) 縦 30.0mm × 横 21.5mm (6) 縦 39.0mm × 横 24.0mm (7) 縦 39.0mm × 横 24.0mm (8) 縦 35.5mm × 横 32.0mm (9) 縦 32.0mm × 横 32.0mm (10) 縦 27.0mm × 横 34.0mm	(1) (4) (9) 縦 27.5mm × 横 38.5mm (2) (5) ~ (8) 縦 32.5mm × 横 38.5mm (3) (10) 縦 45.0mm × 横 24.0mm
シート寸法	縦 86.0mm × 横 187.0mm	縦 127.0mm × 横 187.0mm
写真撮影・提供	(1) (5) 茅野市 (2) 函館市 (3) 八戸市 (4) 山形県 (6) ~ (8) 東京国立博物館 Image: TNM Image Archives (9) 十日町市 (10) 奈良県立橿原考古学研究所附属 博物館	(1) (株)アプロ (2) 小森 正孝 (3) 富井 義夫 (4) 中尊寺 (5) 田中 重樹 (6) 中島 洋祐 (7) 片岡 巍 (8) 荒木 則行 (9) 宮内庁正倉院事務所 (10) 出羽三山神社
切手デザイン	丸山 智 (切手デザイナー)	
助言・監修	文化庁	
版式刷色	オフセット 6 色	
発行枚数	800 万枚 (80 万シート)	2,000 万枚 (200 万シート)
販売場所	・全国の郵便局など ・「郵便局のネットショップ」 ^(注) ・銀座郵便局での郵便振替による通信販売	

2 発行する郵便切手のデザインについて

【63 円郵便切手】

(1) 土偶／長野県茅野市米沢棚畠 遺跡出土

縄文時代中期の立像土偶で、「縄文のビーナス」とも呼ばれています。ハート形のお面を被ったような顔の形、あどけなく開けられた口が愛らしい一方、下半身の造形は、特に豊満に誇張されお腹とお尻は大きく張り出しており、妊娠した女性の様子をよく表しています。

1995（平成 7）年 6 月 15 日に、縄文時代の遺跡から見つかったものの中で初めて国宝に指定されました。

(2) 土偶／北海道函館市著保内野 遺跡出土

縄文時代後期後半の墳墓から出土したもので、1975（昭和 50）年に農作業中に偶然発見されました。「土偶／山形県舟形町西ノ前遺跡出土」((4)) と並び国内最大級の大きさである一方、薄く精巧につくられ、写実的、文様構成に優れています。また、その構造から「中空土偶」とも呼ばれています。

2007（平成 19）年 6 月 8 日に国宝に指定されました。

(3) 土偶／青森県八戸市風張 1 遺跡出土

両脚を若干開いて両膝を立て、その上に両腕を置き手を合わせて指を組んだポーズを取っていることから、「合掌土偶」とも呼ばれています。縄文時代後期後半の大規模な環状集落の竪穴住居跡の片隅に置かれたような状態で出土しました。

2009（平成 21）年 7 月 10 日に国宝に指定されました。

(4) 土偶／山形県舟形町西ノ前遺跡出土

縄文時代中期の、「土偶／北海道函館市著保内野遺跡出土」((2)) と並ぶ現存最大高を誇る土偶で、45.0cmの高さがあり立像として自立する工夫が施されています。女性の姿を究極まで象徴化しつつ高い様式美を誇り、その均整のとれた美しい容貌から「縄文の女神」とも呼ばれています。

2012(平成24)年9月6日に国宝に指定されました。

(5) 土偶／長野県茅野市中ッ原遺跡出土

縄文時代後半前期の、お墓と考えられる穴が密集する場所で、穴の中に横たわるように埋められた状態で出土しました。逆三角形(ハート形)の仮面を装着したかのような顔面で、「仮面の女神」とも呼ばれています。

2014(平成26)年8月21日に国宝に指定されました。

(6) 墳輪武装男子立像

古墳時代の代表的な遺物である埴輪のうち、唯一の国宝です。甲冑を着け弓や大刀の柄を握りしめた武人埴輪で、きりっと結んだ口や深く切り込まれた目が武人の気品と風格を思わせます。

群馬県太田市(旧新田郡九合村)から出土したもので、1974(昭和49)年6月8日に国宝に指定されました。

(7) 製蓑櫛文銅鐸〈伝讃岐国出土〉

江戸時代に讃岐国(現在の香川県)で発見されたと伝えられる、弥生時代の銅鐸です。片面にトンボ、イモリ、シカを射る人など、もう一方の片面にカマキリ、クモ、魚を食べるスッポンなどが描かれていて、男性の頭は○、女性の頭は△で描き分けられています。

1951(昭和26)年6月9日に国宝に指定されました。

(8) 肥後江田船山古墳出土品《獸帶鏡》

1873(明治6)年に熊本県の菊池川中流に展開する肥後江田船山古墳(前方後円墳)の後円部の石棺式石室(横口式家形石棺)から、刀剣、甲冑などの武具類、金銅製冠帽、金製耳飾りなどの装身具、馬具、他の鏡5面などとともに出土しました。

1965(昭和40)年5月29日に国宝に指定されました。

(9) 火焰型土器／新潟県十日町市笹山遺跡出土

縄文時代中期のもので、このほか土器・土製品、石器・石製品類など927点とともに国宝に指定されました。立体的な装飾に富み、優れた原始造形美の独特な形と文様を持ちます。火焰型土器には、煮炊きに使用された痕のあるもののほか、祭りなどの非日常的な用途に供されたものもあったのではないかと考えられています。

1999(平成11)年6月7日に国宝に指定されました。

(10) 奈良県藤ノ木古墳出土品《金銅鞍金具》

古墳時代の築造とされる円墳の石室内から出土したものです。鳳凰、象、鬼面などの透影が施されています。

2004(平成16)年6月8日に国宝に指定されました。

【84円郵便切手】

(1) 円覚寺舎利殿

鎌倉時代(1282(弘安5)年)に北条時宗によって創建された円覚寺の建築物のうち、室町時代中頃に建立されたもので、「佛牙舎利」という釈迦の歯が祀られています。禅宗とともに伝來した中国・宋の建築様式(唐様)を採用した仏堂として、日本最古のものです。

1951(昭和26)年6月9日に国宝に指定されました。

(2) 東大寺鐘樓

鎌倉時代初期（承元年間）に榮西により再建されたものです。構造法や縁型は大仏様を基調としていると思われますが、特異な組物の配置などには唐様と思われる点もみられる、異色の建築物です。

1951（昭和 26）年 6 月 9 日に国宝に指定されました。

(3) 醍醐寺五重塔

醍醐天皇のご冥福を祈るために朱雀天皇が起工し、951（天暦 5）年（村上天皇期）に完成したもので、京都府下で最も古い木造建築物です。初層の内部には両界曼荼羅や真言八祖が描かれており、日本密教絵画の源流をなすものといわれています。

1951（昭和 26）年 6 月 9 日に国宝に指定されました。

(4) 中尊寺金色堂

1124（天治元）年に奥州藤原氏の藤原清衡によって上棟されたもので、中尊寺創建当初の姿を今に伝える建造物です。内外に金箔が押されており「皆金色」とも称され、内陣部分には夜光貝を用いた螺鈿細工、象牙、宝石によって飾られています。

1951（昭和 26）年 6 月 9 日に国宝に指定されました。

(5) 石山寺多宝塔

石山寺（奈良時代（747（天平 19）年建立）にある、建築年代が明確なものでは日本最古の多宝塔で、檜皮葺の屋根が特徴的です。1194（建久 5）年、源頼朝の寄進により建立されたと伝えられており、内部に安置される本尊は快慶作大日如来像（重要文化財）です。

1951（昭和 26）年 6 月 9 日に国宝に指定されました。

(6) 興福寺北円堂

日本に現存する八角円堂のうち最も美しいとも賞されており、興福寺創建者である藤原不比等の一一周忌に当たって建立されました（721（養老 5）年）。被災後、鎌倉時代（1210（承元 4）年）に再建されましたが、奈良時代創建当時の姿をよく残しているといわれています。

1952（昭和 27）年 3 月 29 日に国宝に指定されました。

(7) 三徳山三仏寺奥院（投入堂）

三徳山（標高 899.6m）の北面の標高約 520m 地点の凝灰角礫岩と安山岩との境界部にできた天然のくぼみを利用して建立されています。平安時代後期（1086～1184 年）に建てられたとされていますが、今なお建立方法については分かっておらず、「役行者」が法力で投げ入れられたと伝えられており、投入堂といわれるようになりました。

1952（昭和 27）年 3 月 29 日に国宝に指定されました。

(8) 浄土寺多宝塔

鎌倉時代末期（1328（嘉暦 3）年）に建立されたもので、多宝塔としては規模が大きいものです。

内部には彩色が施されているほか、透かし彫りなど華麗な装飾に富んでいます。

1953（昭和 28）年 3 月 31 日に国宝に指定されました。

(9) 正倉院正倉

奈良時代（756（天平勝宝 8）年）に東大寺に奉献された聖武天皇の御愛蔵品等を収めた宝庫です。

奈良・平安時代の官庁や大寺には重要物品を納める正倉が設けられており、その正倉が幾棟も集まっている一廓が「正倉院」と呼ばれていましたが、現存するのは、この東大寺正倉院内の正倉一棟のみです。

1997（平成 9）年 5 月 19 日に国宝に指定されました。

(10) 羽黒山五重塔

平将門によって創建されたといわれており、室町時代初期（1372（応安5）年）頃に再建されたもので、出羽三山神社の参道の傍らに建っています。かつては瀧水寺の五重塔だったものといわれており、付近には多くの寺院がありましたが、現在はこの五重塔のみ残っています。

1966（昭和41）年6月11日に国宝に指定されました。

3 その他

通信販売の販売概要、郵趣のための記念押印サービスについては、弊社 Web サイトでお知らせします。

【注釈】

（注）「郵便局のネットショップ」への掲載は、2020年5月29日（金）の予定です。

以上

【お客さまのお問い合わせ先】

日本郵便株式会社

お客様サービス相談センター

0120-2328-86（フリーコール）

携帯電話から 0570-046-666（有料）

<受付時間 平日 8:00~21:00

土・日・休日 9:00~21:00>